

鷲  
峰  
方  
四  
号

- 仏陀のことば ..... 1  
祖訓 ..... 2  
色眼言  
地獄の道は小さめれど ..... 3  
たゞ信仰のかか ..... 4

孟蘭盆によせて

Upasatha and Vassa ..... 5  
ウパサカとバサ

目  
次

- 第4次身近山学生行脚布教  
夏季南西方面長驅  
十日連續街頭布教 ..... 16  
そのスケジュール ..... 19  
題字 法主現大

仏陀のことば

衆生見劫尽

衆生劫ヲきて

大火所焼時

大火に焼かすと見る時も

我此土安穩

我がこの土は安穩也とて

天人常充満

天人づねに充満せり

祖訓

般應抄

日蓮が慈悲眞大よりば

南無妙法蓮華經は万年のほど

未未までも流布すべし

日本國の一切衆生の

盲目を開ける功徳あり

無間地獄の道を出でさせぬ

# 卷頭言

## 地獄の道は止むが如也

南ベトナムに於て仏教徒が政府の弾圧 天人常を満しの淨土は嚴然としてあり、  
に抵抗し、叶からガソリンをかぶり火 また祖訓の如くなれば、この仏國土に輝  
を放つ今まで「死の抗議」をするなどいうくあ題目によつて、これを信ずるすべて  
事件がありました。

先には中印毘婆羅半事変、ミシシッピ  
一州大学里人々種排斥事件、キューバ問

題等々、原水爆々発の脅威にあゝやうで  
ける全世界隨所には、既に深刻な斗争が  
繰り返されつあり、ますしく世界は「三  
界六度」とせ、「大火所懼」の時代であ  
ります。

然るに絶大の如くひらは「我此本覺體

と縁く用を以てべ

—— 直蘭金——セシマ原纂の日

## 平 等

平等は、この人生には来るべくもの  
なり。平等に向つて欲求することの  
外が人生なり

然れども、死もまた平等に屬するも  
のに非す。たゞ信仰のみが平等なり

## 休 息

休息は人生に存するものにあらず

人生は働きなり、動きなり

瞬る間といえども人生には休息なし  
然れども死もまた永遠の休息にはあ  
らず。ただ信仰のみが休息なり

## 平 和

人生は平和の時なし  
人生は戦いの蓮鏡なり

ニメ鉄と火の洗礼のみが畢竟にはあらず  
人生そのものが心との戦いにあらずや  
然れども勝利こそ平和といへ事な有ら  
ず。たゞ信仰のみが平和なり

## 甘 樂

恋愛を以つて甘味の味りと見ることなか  
れ、恋愛は恐ろしき戦いなり  
惜ればく奪わざんは与えられざるなり

与えられて、而して空なるものなり

食し終つて、いよいよ食やるものは

リ、恋愛を以つて人生のオヤニスな

リと解するものは誤れり

ただ信仰のせがせ業なり

(大喜源峰著者)

中里介山居士の音輪より)

## 三種簡盒によせて

日高白象

### 祖廟に祈る——就鳥峰金經頌式

四月八日、あ穎園才甫が生 祖廟に集合した。

既れに聖由を期じて、その 西谷の舊取の峰々、身延の尾根へに

夕刻、学校の授業未畢之、本 ほ老松の影を落とす涼む霧が、静かに流 山の用務もすませば就鳥峰へ來ていた。時折して木を破つて山鳥のけ

学生十数名は、山雨にしゆく 大きな声がこだまする・詠ふる人の

ウパワスター  
Upasatha and Vassa

未醒すらば早春暮れなどする雨の  
日の祖廟…………。

学生は默々とこゝで祖廟の靈山橋を渡つ

て。星雲の衣は、しつとりと霧にぬれて  
いた。

拜殿に端座合掌した同は、大音声だ  
よ。やべへやへやへや。摩尼院塔互に顕圓  
をして深し瞑想に入った。

生一回に許してお目に三禮の礼を  
せかべ一人が御廟塔の前に進み出  
た。塔の上に塔をひしぐ音響をひく人あらわ  
せやかべ一人が御廟塔の前に進み出  
て、塔中の大聖人の御前靈に向い奉り三  
禮を吐露して誓願文を奏上した。  
——

敬礼、はらわたも手印此人ほかりの赤誠  
一人一人交代しての誓願文奏上には、全

廟の終るまで相当な時間を要した。既に  
日はとつぱり暮れ、綾西も物ぐさの間同

奉り、本仏の御題旨に帰依して、御廟塔のナガル山へ

降金僧伽に帰依し奉りて、行年の二道  
を勵め、仙逝の靈験來運以て身命を留ま  
せうとを誓願じた。——

せや全員が黒い影へ列座へついた。

爾来この班頌式は、毎週一回の誓峰会

然しこの長時間、單調な同じことを行ふと  
リ医す誓願式は倦むことなく、嚴肅と庄  
嚴は異乎たる表の甲に維持され行つた。の時と同じ儀相にのつてつたのであるが、  
最後の回向の時、仏祖慈軀教跡を  
偲び、現下宗門の隆祚をかんがみて、み  
ずからのお顕彰を感歎し、仏法興隆を期し  
て感動を呼び起しつゝ初一念を奮起し、  
マ体相の冥加を乞い奉れば、居並ぶ者の  
中に驚き起る嗚咽の声は、折から激しく  
降り来つた軒端の雨を定立とも謂ひて、  
深く、そして静かに、相應實境の大地の  
底へと浸り進つて行った。

ウヤクスター(lymphatic)の中へ行事と  
して行われた。それが毎月九日のオ一回  
そのたびことに新入会員はいつもさかばく  
へ余興全休、再び或は三たび、四たび、同  
じ感動を呼び起しつゝ初一念を奮起し、  
仏法興隆への決意を新たにさせられた。

ウヤクスターは毎回、まず唱題修行・誓  
願式・講説会をして講義といふ順に行わ  
れたのであるが、この中、誓願だけだと  
之新入会員はなくとも、会員一同に誓願

## 鶴嶋峰会のウヤクスター

文を齊唱し、特に「鶴嶋峰会に帰依する

といふを、我と汝が身に確かめあり、さうになつた。講義は簡單なりのテキ  
書いあり、そゝく書が合つた。  
まことに悔悔とは一同車座トドリ、先週  
のハヤワスタ以来、すきにし一週間の自  
己の身口意三業について懺悔じあい、乃  
至は自分に累付がなり反省すべき處多も

ストを配布し、お釈迦様が三法印より法  
門を説き起されたよろに、諸行無能說に  
もとむく「佛教時圓論」より始まつて、  
「本仏教尊の久遠奥義」へと指向して行  
つた。

指示してもらひあうことを理想とした。  
然し現実には、これは容易な事ではな  
がつた。何故ならば幽悔告白するに至る  
がつた。

まことに、平素ヤマハの緊張にもとか  
く快慢思索と、深刻な体験とを必要とする  
からである。

といふ人びと大抵は講義に未だがあれり、たあつて、既に行かれていしたものである。

々団の中にあって、既に行われていたものである。

聖峰会は、そのウ・パワスターの様式にもとづいて、二千數百年前のお歎迎(まか)時(まか)の精神の在り方を、今世紀において現代的に蘇(よみがへ)らし、これを至急に正法の興隆と社会の繁榮のため、城北正うとしたものにすぎない。

### お歎迎(まか)時

#### ウ・パワスター

ウ・パワスター(Upanatha)とは漢訳してコサラ王は、パラモン教徒が五日ごて布薩(法事)といつ。その起りは――お歎迎(まか)時に月六回の集会を開き、正法してからが開かれて来二年田(聖典三「」とを例にとって、仏教の僧伽におこなわる)の春の頃の、と、アカダ國の主ても集会開法の聖田をめぐらしては――

山)の中の林木山に入つて法を觀かれだ時、若モ國王ヒンコナラ王(同年三十六)は、みずから山へ登り礼を慶んで、法を聽き、即座に入信して戒を覺け

し、山外の静岡(竹林國)に寺院を建立して教田に寄進した。これが仏教最初の寺院、

と提唱した。

仏法僧の三宝皈依の誓願がなされた。

お釈迦さまはこれを許された。こゝに 御用八日と十日・十五日の三日を聖日 とし、「礼をウパワスターと呼ぶ」誕生したのである。

さてウパワスターの日、遠近の男女は早朝より、それぐれど真心のこもった供養の品々をたむさえて続々と集って来た。お釈迦さまは、「礼を比丘・比丘尼・可誓願された。

善男・善女の大眾に向つて法を説かれた。この時、お釈迦さまは自ら仏法僧あたいる日、仏門に後じ仏弟子として、他の一員として、平等の立場で謙虚お蒙する者の供養式や、在家の信徒となる者の改宗式も行われ、広範なる中に「私に懺悔する」とがあれば進んで

私も大聲の前で憤り、再び犯さる  
こと本望へたい」

三明六通の大覚せ翁にしてこの言葉が  
ある。こゝに今更に仏陀の仏陀なる所以

のものか、ふしと心に感じられよう。

お歎迎さまは仏教僧侶の組織の中にあ  
つて、いかにも教祖的存在でもなければ  
会長的存続どもなかつた。はたまに支配  
者でもなければ超然たる存在でもなかつ  
た。

お歎迎さまは田舎に無上の情りを聞き、  
一切衆生の師と仰ぎられながらも、教団を動搖する大聲に向つて、お歎迎さまは仰  
ての声にておつては、學んだ私第少・信宿と  
せられた。

同じ立場に立たれ、衣食住も共にする  
毎朝の花鉢行乞の時は老婆子と共に歩き、  
毎日のウバワスターの時け信徒と共に懺悔  
告白しようとされたのである。

爾後ウバワスターは、お歎迎さまが八十

才の二月十五日の夜半、クシナガラ城外  
の西南、キレン河のほとり、沙罗双樹の  
もとで入滅されるに至るまで、その間お

よざ四十六年も歳りられ、そのつとお歎  
迎様の間に吉慶深くくり返された。

「私は固もなく涅槃に入る。若し私の企  
生涯の中にありて懺悔すべき二とかあれ  
ば教えを欲しい。私は懺悔して涅槃に入  
りたい」

そして「法に依つて人に教えられしと  
いう誠めが最後のことばとはったのである。

3.

### お駕籠士ま當時の

#### 僧迦バサ一

バサ一（バサイ）は漢訳して安居、  
安居、或は更處と云う。印度では  
三ヶ月に及ぶ雨期がある。その間、人々  
は旅行も出来ない。

ウバクスターはお駕籠士ま當時の僧  
伽トとしてよくべからざる重要な集会で  
あり、後醍醐の佐政々園にありておき  
場所に集合し、各地の僧隣と連絡を繋ぐ

やめて大切な行事となつて行つたことは  
いうまでもない所であるが、僧伽トはウ  
バクスターと共に、年一回の長期ト亘るバ  
サーという集会があつた。これが主とし  
てマイント持君の氣候、風土によるもので

し、布教軟蓬を報告あり、教団の和合、第三道を研修したといふことは、何とす  
を計り、特にこの期間中、お祭迦さまよばらしに講習会をあつたことか相像も絶  
り組織的に教法を教授され、禪思・工夫しよう。

修業することを主としていた。

是してバサ—最初の七月十五日、バサ  
ー中に犯した罪を、互に指摘しあり、懺  
悔しあり、翌日より再び和衆の正法を宣  
布すべく、それぞれ各地の布教幹線へ向  
って出発していつたのである。

バサーとは現在風にいえば講習会にも  
相當しようが、全国各地の仏弟子達が一  
齊に一齊に集合し、あれ程盛大を中心と  
して三ヶ月の間、一步外へ出ずに行

まだぞの最終日に懺悔会を開き、翌日

は来年の集会を期して島嶼諸各地の布教幹  
線へと袂を分つて行つたといつて革は、今日  
の仏教各団の在り方にありても大いに學  
べべき所があつ。

### 西蘭金の起り

ここに述べるところは西蘭金の起りで  
ある。西蘭金は七月十五日であるが、七  
月十五日といえばバサ—最終の懺悔会の

月に外はらひ。

お駆除さまの十大弟子の中に神通ヨー  
ガ生サの母一人をも救う事ができまい。  
どうだわれた日蓮草者がいた。日蓮曰く、  
日蓮すおのれの非力を嘆き憤感した。  
ヨー子にあへべ、七くな、た自分の母が  
そしてゼロ十出日バサー最初の懇請会に  
参詣めどにじよかと、さうの神通力によ  
あひて、お駆除さまをはじめ大衆の前に  
つて深し求めた。由は淨土にあらがい  
ニ此を懲悔し、として救いの道を求めた。  
トもあらうに餓鬼道に墮ちていた。故郷を  
離れて日蓮は、位業子中最大一の神通  
「神通力によらず正法によらねばならず  
」母の心を尊がにして、しかも自分の  
力を少しづつ母を餓鬼界より救い出  
し。母の心を救あうとする利己的な仕方は  
そうとした。然し如何とも仕様がない。  
母の心を救あうとする利己的な仕方は  
餓と母に食をやる、食をやのをやへば  
所難、母一人をも救うことはできない。  
にも、却つてそれは大ヒ然え、母を苦し  
めるばかりであった。神通ヨー子は我  
々へも正法を施し、ものを施すことによ

同じ業界に苦とも有縁無縁のすべての人  
あるばかりであった。

よって、母はそれらの人々と共に救われて行くであろう。

### 赤蘭金会と僧侶の在り方

在り方

今日、日本國土における赤蘭金会は、密教の如何を問わず、民族の美しい風習問題となつてゐるであろう。蓋し身延山とまだな、て年々しげて、然し僧侶は根家誓峰会学生僧のち、やがて集いの中に、家庭へ歸る祖孫に追われ、寺院で行わお教説をも當時の僧侶の在り方を現れる如儀な供養も一場の儀式と化して、代に蘇生せしめんとする道念の終焉を赤蘭金の起つてまた根本精神といつもの最もするものがあつたが、まだ何苦かは、殆んどとててよじほじ腰りみじれなくなってしまった。といふ。

せめて赤蘭金には、お教説をばせね

時々如く、自己の生活を顧りみ、信仰を反省し、更に懲悔しあい、心から先祖に向むすると共に、有縁無縁の一切にも施すようでありたい。

おやり

# 第四次身延山学生行脚布教隊

夏季休業西各地へ長舉

## 十日連続街頭布教を決行

身延金谷主体とする身延山学生有志の、休暇ごとに休暇を返上し、自主自弁、  
行脚布教は、昨年七月の夏休み、宗祖身延金谷やアルベイト等をして旅費を枯  
落入山の聖蹟を逆たどり、身延山から東出しへは、現地寺院相信徒の繪馬を朝  
参道を登て鎌倉、池上そして東京都心に下た協賛により、それそれ三泊四日の  
至るまで、車にも乗らずに、およそ八十日程をもつて行脚布教の圓教を重ね、  
此の行程を十日間に踏破布教しまして以テ。つゞ各地に大いなる布教成果を  
示し、本年正月の冬休みには京都、奈良、あづま東京へと、行脚布教始す。  
大和郡山、福知山方面へ、更に三月の春、ついでに一年目に當下る今度の夏  
休みには長野県松本、中信地区方面へと、休みには、第四回目の行脚布教がこなされ



、約半年間の準備期間を経、旅費も作り、果たかんがけ今回より、「身延山荷頭別館スクエール」通り七月二十日、布教隊動隊」という名稱のとてに、布より八月三日迄れ十日間の日程により、収資金の援助をうけ、正式に身延山布愛知県の豊橋、刈谷、一宮、名古屋、教部より派遣せられることとなり三重県の四日市、富田、奈良県の大和、子した。

高田、梅井、大阪府の大阪、布施方面はあ今度の行脚には日蓮宗布教研修の大都市大於て、現地業務並、而教師会、修法師会、普門寺院、祖信徒講議会、等々の主催、又は後援により長距離のにも及がます。

斜體布教石展開、あれにて平和祈願式典、講義会、磨詠会を開催すること、ガリました。

またここに於て行脚布教は、今迄の成、休む暇もない激勞と緊張、そして睡眠

不足の下め、道中不倒れ了若と読出する。於かれましては、方障あくアカセガ  
ガヒ懲愈ハシメテ大手すが、これこそ不惜身命。教に而参加下さいますよ。而東内甲上  
の毛護モモガムであり、隊員一員倒れても止まぬ。而、共々に公使の高恩に報じ奉りたい  
い深意をし、云々と之に宗良宣揚、創価學と存じます。

今も被教、立正世界平和建設に向つて燃ハラスル。②行脚布教隊員二十數名、三十名  
文湯の道念を尊び起してあります。

#### ②布教車出動

國うべ海森佐教年に於桂生温泉大學の  
中でも、又一般入學の中でも、かゝる學一バー一組、教箇六分校、千ラシニ  
生運動は曾幾々なり莊幸であり、日蓮宗不教、謹習于チヌー並々モ携行  
トシモして、近年稀なる舉挙だと田急にモ  
す。

#### 一人向禮拜に徴すること二点

信仰與实践の極地である

精神的而期待の上、一層の而支撑を賜ひ  
新る心に徹せよ。永遠の光は  
云々と、また東西方面の本誌讀者へ  
その祈りより生れ

# 夏季関西方面学生行脚布教スケジュール

豊橋布教 七月二十五日（木）後援：愛知県三河宗務所

七月二十五日午前四時学生布教隊身延山祖廟集合。五時十二分身延駅発、六時二十八分富士駅着、六時四十二分岡駅発。九時四十二分東海道三川駅下車。

## 二 川 地 区

- 現地寺院檀信徒は午前九時三十分三川駅前集合、身延山布教隊と合流。
- 十時より創価学会折伏街頭布教展開。十二時三十分三川町妙泉寺（住職—塚越通曉師）到着。
- 妙泉寺にて身延山と創価学会について講話（講師—日高白象師）中食。
- 十二時三十分妙泉寺出発。午后一時三分三川駅発。一時九分豊橋駅下車。

## 豊橋地区

現地寺院檀信徒は午后一時豊橋駅前集合、身延山布教隊と合流。

一時三十分より創価学会折伏街頭布教展開。午后五時市内花田錦町二・五大法寺（住職—石橋妙定師）到着。

大法寺にて立正世界平和祈願会、法華經の菩薩道と創価学会の霸道について講話（講師—日高白象師）

午后七時より唱題信行と質疑応答座談会。当日布教隊同守泊。

刈谷布教 七月二十六日（金）後援：愛知県三河宗務所

## 刈 谷 地 区

現地寺院檀信徒は午前九時三十分刈谷駅前集合、身延山布教隊と合流。

十時より立正世界平和街頭布教展開。途中小憩二ヶ所、中食その間布教。午后一時三十分市内宝町二丁目

刈谷身延会道場（住職—浜島妙澄師）到着。

身延会道場にて立正世界平和祈願会と先祖供養法要。人類の平和と日本人の使命について講話（講師—日高白象師）

# 一ノ宮・名古屋布教 七月二十七日（土）

主催：行学会  
後援：名古屋宗務所・尾張宗務所

午前七時十二分刈谷駅発。八時六分尾張一ノ宮駅下車。

【註】行学会とは愛知・三重・岐阜三県の青年僧五十数名にて  
よつて結成せる団体。代表は宗會議員長谷川正徳師。

## 一ノ宮地区

一、現地寺院檀信徒は午前八時尾張一ノ宮駅前集合、身延山布教隊と合流。貸切大型バス三台待機。

二、八時二十分より **立正世界平和・創価学会破折街頭布教 展開**

三、午時二十分貸切バスで名古屋駅へ向う。車中で中食。

## 名古屋地区

一、午前十一時名古屋駅前広場下車。現地寺院檀信徒と合流、駅頭布教。

二、駅前より市中 **最繁華街広小路通りを擊鼓大行進**。十二時テレビ塔到着、布教。これより貸切バスで熱田地区へ向う。

一、十三時三十分南区豊田本町二十日萬行寺（住職・藤田妙海師）到着下車布教。午后一時万行寺より **立正世界平和・学会折伏街頭布教 展開**。熱田駅前・熱田神宮を経て午后二時熱田区田中町本遠寺（住職・伊藤友情師）到着。

二、午后二時三十分より本遠寺にて **立正世界平和祈願会**と **先祖供養法要**（導師・長谷川正徳師）

三、三時三十分より **大演講会**

○挨拶

接

宗

務

所

長

○世界平和と宗門の使命について

○日

高

白

象

師

○創価学会の動向と國家の危機について

○長

谷

川

正

徳

師

二、午后七時より **宗門青年運動の在り方について座談会**（当日布教隊同寺泊）

## 四日市布教 七月二十八日（日）

主催：四日市妙延寺  
後援：三重県宗務所・北勢寺院

午前七時本遠寺出發。七時四十五分近鉄四日市駅下車。

## 四日市地区

一、現地寺院檀信徒は午前七時三十分近鉄四日市駅前広場集合、身延山布教隊と合流。駅頭布教。

二、午前八時より **創価学会折伏街頭布教 展開**。諏訪神社布教・安樂寺（住職・藤牧勇宣師）・智友寺（住職・近藤如教師）布教を経て九時五十分本覚寺（住職・伊藤龍雲師）到着。

三、午前十時三十分富田町一本松下車。現地寺院檀信徒と共に午時四十分四日市市東富田南町妙延寺（住職・木原純師）到着。

## 富田地区

一、午前十時三十分富田町一本松下車。現地寺院檀信徒と共に午時四十分四日市市東富田南町妙延寺（住職・木原純師）到着。

一、午前十一時より本堂にて 創価学会折伏街頭布教 展開。

一、午後一時より富田地区 創価学会折伏街頭布教 展開。

一、午後三時より妙延寺本堂にて 本仏信仰と先祖供養について講話（講師—日高白象師） 上質疑応答座談会。  
当日布教隊同寺泊。

## 大和高田・桜井布教

七月二十九日（月） 主催○奈良県連合立正青年会  
後援○奈良県宗務所・布教師会

午前六時五十九分近鉄富田駅発 中川・八木乗換。九時三十五分高田駅下車。

## 大和高田地区

一、現地寺院檀信徒は午前九時三十分高田駅前集合、身延山布教隊と合流。

一、午前十時より 創価学会折伏街頭布教 展開。市内三倉町妙行寺（住職—辻本助成師）春日町（住職—吉田竜慶師）を経、午後二時三十六分高田駅発て桜井へ向う。

## 桜井地区

午后二時四十五分桜井駅下車。

一、現地寺院檀信徒は午後二時三十分桜井駅前集合、身延山布教隊と合流。

一、午後三時駅前より 立正世界平和街頭布教 展開。五時市内中央通り宗務所妙要寺（住職—大島鳳静師）到着

一、午後五時より 妙要寺にて立正世界平和祈願会（導師—大島所長）

一、午后七時より 本仏の浄土と平和社会の創設について講話（講師—日高白象師）質疑応答座談会。当日布教隊同寺泊。

## 大阪布教

七月三十日（火） 主催○大阪市布教師会・修法師会  
後援○大阪市檀信徒協議会・日蓮門下連合会

午前六時五分桜井駅発。

## 大阪地区

一、現地寺院檀信徒は午前八時、北区西寺町二丁目本伝寺（住職—丸田恵貞師）集合、身延山布教隊と合流。  
一、午前九時より 立正世界平和街頭布教 展開。本伝寺・御堂筋・周防町・南警察署前を経て、十二時南区谷町

一、八丁目妙経寺（住職—西川友義師）到着。途中の市庁前・新橋前・南警察署前にて 交通安全祈願。  
一、午後一時より二時まで妙経寺にて 立正世界平和祈願法要（導師—宗務所長、式衆—修法師会・布教師会・  
管内寺院・身延山布教隊）

一、午后二時より五時まで妙経寺本堂前広場にて 創価学会批判講演会（講師—八須日忍師）

# 神戸地区

一、現地寺院檀信徒は午後一時に生田神社拝殿前に集合、身延山布教隊と合流。

二、午后二時生田神社より立正世界平和街頭布教展開。生田神社・センターハウス・元町本通り（布教）・楠公前

・新開地を経て午后四時三十分淡川公園に到着。

一、午后五時淡川公園より身延山布教隊と現地一部は市内兵庫区水室町・丁目行守寺（住職・清水泰伸師）へ撃鼓行進。行守寺到着と同時に立正世界平和祈願法要（導師・宗務所長）。

二、午后七時より行守寺にて世界平和と法華經の菩薩道について講話と座談会。当日布教隊行守寺泊。

## 龍野布教 八月一日（木）二日（金）

主催：兵庫県西部管内檀信徒協議会  
後援：兵庫県西部宗務所・管内日蓮宗寺院

### 管内青少年講習会

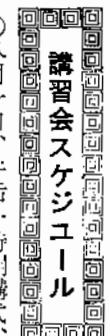
一、兵庫県西部宗務所管内四十三ヶ寺は檀信徒協議会主催のもと身延山布教隊を迎各寺院の住職・護持会長・所属青年を総挙して一泊二日の青少年講習会を開催。（参加白山、会費三百五十円）

一、会場は竜野市竜野町福之神常照寺（住職・谷口宗敏師）

一、講師は京都本山法首湯川日淳師、演題 日蓮聖人の生涯を顧みて現代青年の在り方を論ず。身延山布教部長岩間湛良師、演題 現代社会に於ける菩薩道について。京都特命布教師三木淨達師、演題 日蓮聖人の教えとその人格。兵庫西部布教師会長矢谷恵法師、演題 未定。身延山行脚布教隊長日高白象師、演題 法華経に於ける人間理想像としての実践道。

一、身延山布教隊長は八月一日午前九時三十九分神戸駅発。十時五十六分姫路駅着十一時十六分姫神線発、十一時四十二分本竜野駅下車、十二時三十分常照寺到着。

### 講習会スケジュール



○八月一日、午後一時開講式、一時三十分より三時講義、三時三十分より四時三十分唱題修行、四時三十分より六時入浴、夕食、六時より七時講義、七時三十分より七時四十分夕勤、八時より九時講義、九時より十時座談会、常照寺泊。

○八月二日午前五時起床、五時三十分より八時朝勤・清掃・朝食八時より九時三十分講義、十時より十一時三十分講義十二時中食、午後一時より三時竜野市中街頭布教、三時三十分より四時三十分座談会、五時閉講式、布教隊常照寺並に総代（花房卓二氏）宅泊。

## 姫路布教 八月三日（土）

主催：姫路市日蓮宗寺院  
後援：兵庫県西部宗務所

### 姫路地図

一、現地寺院檀信徒は午前九時三十分姫路駅前に集合、身延山布教隊と合流。

一、午前九時四十分より立正世界平和・創価学会折伏街頭布教展開。

一、午前九時十一分本竜野駅発。九時三十七分姫路駅着。

## 布施地区

一、午後六時より布施市菱屋西三八四宝樹寺（住職—和田竜遵師）にて 現代宗門布教の在り方について座談会。  
当 日 布教隊同寺泊

西宮・神戸布教 七月三十一日（水）主催：兵庫県東部宗務所・神戸市日蓮宗寺院

## 西ノ宮地区

一、現地寺院檀信徒は午前九時に阪神電鉄の今津駅前に集合、身延山布教隊と合流。  
二、九時三十分より 立正世界平和街頭布教 展開。十時三十分市内津門羽羽町六〇宗務所淨願寺（住職—富田栄  
妙師）到着。中食の間布教。  
三、十二時三十分淨願寺出発。阪神電車で三ノ宮駅へ向う。

鷺峰第四号

昭和廿八年七月十五日  
發行

編集

印刷

發行

山梨県身延町久遠寺西

鷺峰會